

思い出の詰まった学び舎をあとに それぞれ進む道は違っても



感動の卒業証書授与式

[教育目標]

心豊かな生徒
自ら学ぶ生徒
たくましい生徒

桐の里だより

令和4年3月号
三島町立三島中学校
校長 関根宏房
ホームページURL
<https://mishima.fcs.ed.jp/>三島中学校



例年になく雪の多い、今年の冬。3月に入って、少し寒さも緩み、降り積もった校庭の雪が、沈みかけたのも束の間、またその上に雪が降り重なり、なかなか春がやってきません。気づいてみればコロナ禍も、丸二年が経っているのに、思うような生活ができるどころまでには、至っていません。

三月十一日(金)本校体育館におきまして、令和三年度の卒業証書授与式を挙行いたしました。

今年もまた、コロナ禍により、ご来賓の方々のご臨席は叶いませんでしたが、この状況下でできる精一杯のこととして、七名の卒業生を送り出そうと、在校生そして教職員で力を合わせて行いました。

少し大きめの制服に身を包み、お喋り好きで人懐っこ

い、明るく、元気な六名が、三島中学校に入学してから、早いものでもう三年が経ちました。

中学校生活の三分の二が、マスクの必要な生活となり、思う存分活動できたとは、決して言える環境ではなかったかと思えます。

それでも、彼らが三島中に残した足跡は、とても大きなものでした。

一年生の時の桐陽祭。彼らが演じたものは、成長して青年となり、三島町に集まった、自分自身で書いた予言の書、これにまつわる話だったかと記憶しています。

ここから始まった彼らの学び。次世代の議会が生まれたのも、その翌年の一月でした。時の三年生が踏み出してくれた第一歩。すぐ上の三年生がさらに一歩踏み込む様子を、間近で見ている彼ら。そしていよいよ自分たちの時を迎えた春、彼らは大きな仲間を得て、七人になりました。

これまでも、なんでも話し合って考えを深

め、進む方向を決めてきた彼らでしたが、一人加わったことで、そのバリエーションは何倍にも増え、成長のスピードは加速しました。

ここ二年間のコロナ禍で、実動こそ叶いませんでしたが、彼らの目には町の未来が映り、頭の中には予言の書ができていくことと思えます。

卒業を機に一旦町を離れ、それぞれの道を進むことになりましたが、どこかで花を咲かせても、彼らの根っこは、ここ三島町にあります。町の外で見て聞いて考えて、成長し、青年になった彼らの目に、時の三島町がどのように映るのか、気になるところです。

ただ、この三年間の彼らの功績はここから生きてきます。彼らの姿を見て成長してきた後輩たちが、これから第二、第三の彼らとして、突き進みます。そして、コロナ禍が落ち着けば、実動が叶い、目に見える成果が表れます。青年となった彼らの目に映る三島町へと、道は続きます。

